

UNIVERSITY OF WASHINGTON WIND ENSEMBLE

ワシントン大学ウインドアンサンブル 日本公演



ワシントン大学内の選抜ウインドアンサンブルで、学内で最も優れたプレーヤーで構成されています。メンバーは、学内の全ての学生を対象に開かれるオーディションによって選ばれます。これまで多くの有名な音楽コンベンションに参加し、数々の世界初演のレパートリーを披露しています。2004年3月には、兵庫県吹奏楽連盟の招待により9日間の演奏旅行を行い、素晴らしい成功を収めています。また2006年5月には、シアトル交響楽団の“メイド・イン・アメリカ”コンサートシリーズに招かれ、大学レベルのバンドとして初めて、アメリカ一流交響楽団との共演を果たしました。特色として、吹奏楽のための現代音楽の演奏に力をいれ、また国際的に活躍する演奏家や作曲家、指揮者とのコラボレーションなども精力的に行っています。

JAPAN TOUR 2007

OSAKA

大阪公演 / 3・16 / 近畿大学11月ホール
ワシントン大学ウインドアンサンブル日本公演 2007 in OSAKA with
近畿大学吹奏楽部

KOBE

神戸公演 / 3・17 / 神戸文化ホール 大ホール
ワシントン大学ウインドアンサンブル来日記念国際交流演奏会
フレンドシップコンサート

KURASHIKI

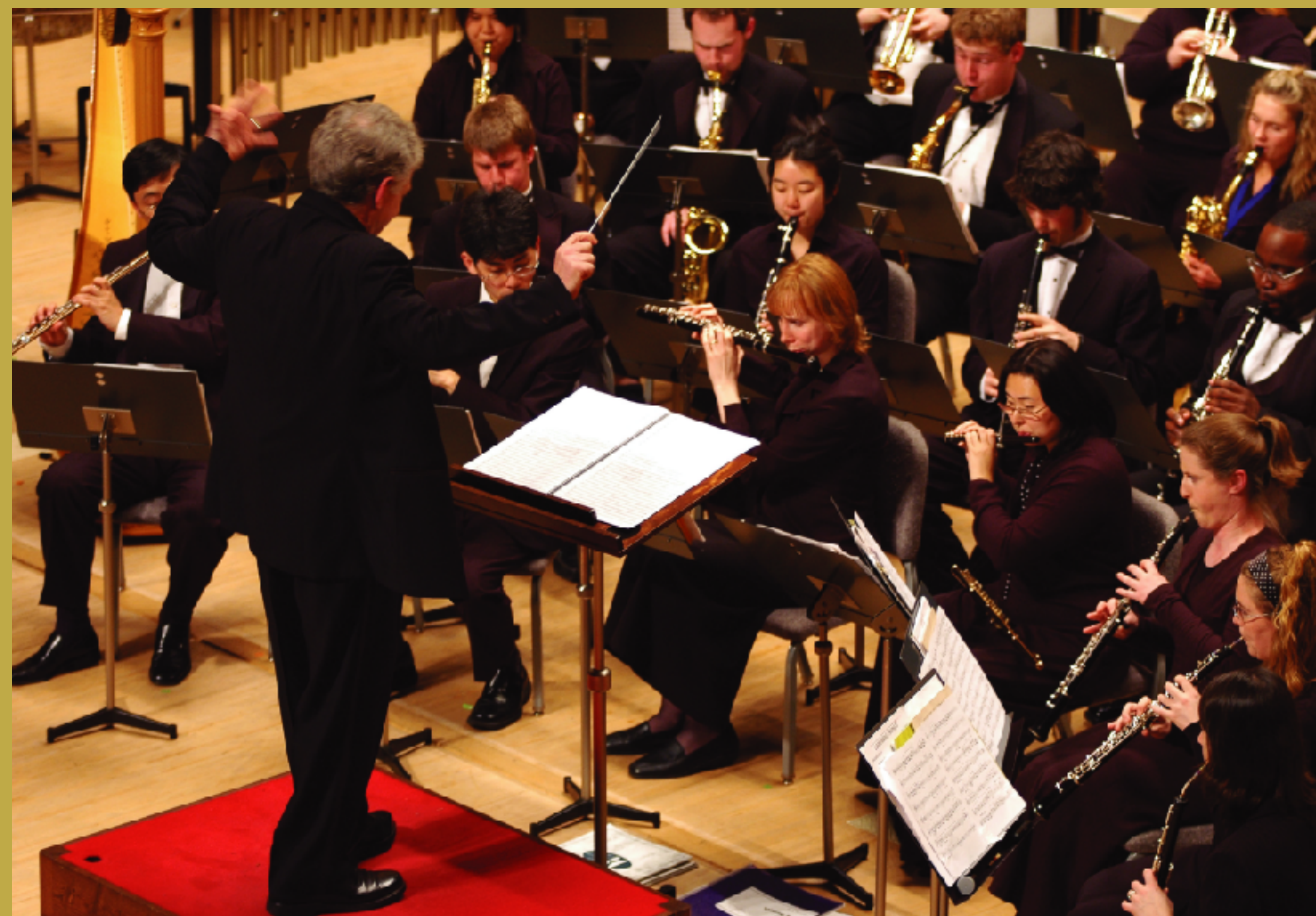
倉敷公演 / 3・18 / くらしき作陽大学藤花楽堂
JWECC2007スペシャルコンサート

IZUMO

出雲公演 / 3・21 / 大社文化プレイスうらら館
ワシントン大学ウインドアンサンブル in いずも

KUMAMOTO

熊本公演 / 3・23 / 熊本県立劇場コンサートホール
ワシントン大学ウインドアンサンブル・玉名女子高校吹奏楽部ジョイント
友好スペシャルコンサート2007



KURASHIKI

倉敷公演 / 3・18 / くらしき作陽大学藤花楽堂
JWECC2007スペシャルコンサート



Message & Koment

メッセージ & コメント



Timothy Owen Salzman
ティモシー・サルツマン

Tomio Yamamoto
山本 富男 日本マーチングバンド・バンドワーキング協会 公認指導員

吹奏楽をされている高校生みなさんへ。
日本の高校生バンドと一緒にやってみて、たくさんメッセージがあります。高校生たちには本当に感心させられます。特に鍛錬すること、熱心さ、懸命さに感心させられます。日本の高校生バンドは、私の知る限り世界で一番のバンドだと思います。ぜひ、このことは高校生みなさんに知ってほしいと思っています。私は指導者として世界のいろんな所に行ったことがありますが、日本の高校生のバンドは本当に素晴らしいです。それからもう一つ伝えたいことは、私が今まで関わった多くのバンドは、高校生は大学でも演奏に関わりませんが、その後はなくなるか別の方向に行きます。もっと地域のバンドを作れば、演奏を続けることができるのです。音楽のいい所は一生続けられることです。スポーツの場合はそういきません。死ぬまで野球をすることはできません。でも音楽の場合は、地球が滅ぶまで続けることができるでしょう。私は高校生みなさんにぜひ演奏を続けて欲しいと、日本の高校生に強く言いたいのです。クラブ活動としてだけでなく、人生の一部として音楽を考えて欲しいのです。このことが吹奏楽をやっている高校生に一番伝えたかったことです。

ワシントン大学 ウィンドアンサンブル 日本公演を終えて。
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

OSAKA

大阪公演 / 3・16 / 近畿大学11月ホール
ワシントン大学ウィンドアンサンブル日本公演 2007 in OSAKA with 近畿大学吹奏楽部



K O J I K A K U T A N I
角谷 晃司 近畿大学吹奏楽部 部長

近畿大学吹奏楽部は、4回におよぶ韓国演奏旅行をはじめ、1983年にはローマ・ウィーン両市の招聘による演奏旅行、1987年には「ABA・JBA合同コンベンション」によるアメリカ演奏旅行、1991年には「シドニーオペラハウス国際音楽祭」での招待演奏、1993年にはスペイン・バレンシアで開催された「WASBE国際会議」での特別演奏、1997年と2001年にはオランダ・ケルクラードで開催された「世界音楽コンテスト」の最高峰であるコンサートディヴィジョンに出場し、金メダルを受賞、2006年には「ホノルルフェスティバル」に参加するなど、国内はもとより国際的な活動を積極的に行なっております。ちょうど20年前、現役部員であった私は、アメリカ演奏旅行に参加し、バドュー大学、テネシー工科大学やカルフォルニア大学での演奏会に出演する他、「ABA・JBA合同コンベンション」ではマリンバンド、イリノイ大学、フロリダ大学の多くのメンバーと交流を持つことが出来ました。ワシントン大学ウィンドアンサンブルの指揮者ティモシー氏は、「ABA・JBA合同コンベンション」の関係で20年前に、近畿大学吹奏楽部の練習場に来られたときにお会いし、またコンベンションの開催地であるテネシー州・ノックスビルでもお会いしました。これまで数回、定期演奏会の客演指揮でお世話になった吹奏楽界の巨匠フレデリック・フェネル氏が、ティモシー氏に近畿大学のことを話され、我々の事をよく知っておられました。色々な方のご縁で、ワシントン大学とのジョイントコンサートができたのだと改めて感謝しております。音楽の指導は週4時間の合奏のみで、非常にレベルの高いサウンドを出せることに驚きました。その秘訣は、やはり普段の基礎練習が8割、残りの2割が技術的なことでした。このようにティモシー先生の指導により体系化された練習法が、ワシントン大学ウィンドアンサンブルの素晴らしいサウンドを生み出すのだと、本当にいい勉強をさせて頂きました。来日の翌日にもかかわらず、疲れも見せず、交流会に参加して頂きました。演奏会だけでなく普段接することのない海外の音楽仲間を作ることが大切であり、学生達は言葉が通じなくても交流を深めることができたようです。やはり、短時間でコミュニケーションが可能だったのは万国共通である音楽のお陰かもしれませんね。また、これを機会に我々の部員からアメリカに旅立つ学生が出てくれることを期待しております。



KOBE

神戸公演 / 3・17 / 神戸文化ホール 大ホール
ワシントン大学ウィンドアンサンブル来日記念国際交流演奏会—フレンドシップコンサート



INTERVIEW

インタビュー



Q: What is the purpose for this trip?
今回のツアーの目的は何ですか。

The purpose for this trip—there are many purposes, I would say. And, um, what we want to do is we want to bring the best of what we have from America to Japan and learn from the best of what Japan has and just have the real exchange of ideas and information about how to do music and how to grow as people and musicians, I would say—to learn from each other's culture because there are great things about Japan and great things about America, and they are very different, but if we can bring them together, it brings people together, and that's what's most important.

目的はたくさんあるんですが、私たちがしたいのはアメリカから最高のものを日本に持ってくることで、日本が持っている最高のもの

のを学びたいこと、そして音楽にどう取り組むか、また人間として音楽家としてどう成長するかについての考えや情報を具体的に交換すること、お互いの文化から学ぶということなんです。日本にもアメリカにもそれぞれいいものがあるからです。それは全く異なるものです。しかしそれを併せれば、人々をも併せることになります。それはすごく大切なことです。

Q: How many times have you been to Japan, and what kind of impression do you have after you perform in Japan?

何回日本に来たことがありますか。そして演奏した後、どのような印象を受けましたか。

I've been to Japan nijukkai. This is trip number 20, and I've always learned so

much. That's why I like coming to Japan. I've learned a lot—I've learned a lot about dedication and commitment and discipline, and I love to watch Japanese students learn, because they learn a little bit differently than American students in some ways. And most of all I enjoy the fact that they take what you say and really try to absorb it in a very short amount of time, and they just get so much better so quickly. That's exciting to be around; I love that.

私は20回来ました。今回が20回目です。いつも私は多くのことを学んでいます。だから日本に来るのが好きなんです。本当に勉強になります。尽力すること、献身的にすること、鍛錬することなどです。それに私は日本の学生が学ぶ姿を見るのが本当に好きです。というのもアメリカの学生とは学び方が少し違うからです。しかし何と言っても、ほんの短い期間で言われたことを懸命に

吸収しようとする姿を見るのが楽しみなのです。日本の学生は飲み込みがほんとに早いんです。手応えを十二分に感じます。そういう雰囲気はほんとに好きです。

Q: How about the tour in 2004?

2004年のツアーはどうでしたか。

The tour in 2004 was a life-changing experience, I think, for our students, you know, speaking for our students, and they would say that, because they had no idea about Japan and its, uh, well, the beauty and music, and again its discipline and dedication, and I really wanted them to see that. I waited for many, many years until I thought that the group was good enough to come before I decided to try to do that, and I don't think we're as good as some Japanese bands, but we are good enough to where we could come and show them something a little different, like I said before, and they could learn, and we could learn from them. But it changed our students, I think, for sure. They came away with a better feeling, most of all, of community, of watching the Japanese students work, like we just saw in the hall a minute ago, as a group, as a unit. In America—America is a very independent country. Everyone thinks for themselves, and our feeling of community is something that I think is really lacking, so I wanted our students to see, you know, how to give to each other, to care for each other, and to work towards a common goal, and you really see that in a very small world in the Japanese bands, in a way that you can see right there on the stage, like we just saw. So it's a great learning experience for our students—they're always just amazed by that.

2004年のツアーは学生にとって人生を変える体験をしたと思います。彼らは日本のことは何も知りませんでした。例えば、(日本の)美しさ、音楽、(人々が)鍛錬すること、懸命さなどです。だから私は彼らにそういうものを見て欲しかったのです。私は何年も待ちました。学生がそういうものを吸収できようになるまで何年も待ちました。私たちは日本のバンドほど上手ではありませんが、何か日本のものとは異なるものを持ってきて見せることはできます。先ほども言いましたが、日

本の学生が私たちから何か得、私たちも彼らから得ることができます。それがアメリカの学生を変えました。確かにそう思います。彼らは以前よりも充実した気持ちで終えることができました。たった今見たような日本の学生がグループとして一団となって取り組む姿を見て、グループの一員としての意味を理解したと思います。アメリカは非常に個人主義的な国です。それぞれが個としての自分を考え、集団に対する感情は欠けていると思います。だから私は学生が、互いに与え合うことや互いに気にかけること、共通の目標に取り組む(日本人の)姿を見て欲しいのです。それはバンドのような小さい小さい世界の中でも見ることができます。つい先ほどのステージの上で正にそれを見ることができました。学生にとってはほんとにいい勉強になりました。いつもびっくりさせられます。

Q: Number 4—what do you think of Japanese bands throughout all the experience you have here?
日本のバンドをどう思いますか。

Yeah, I think that I tell people in my country that I think that Japan has done with band what they've done with the automobile industry, that they saw

American cars and they really liked American cars many years ago, so they sort of imported ideas and then made automobiles much better. And I don't think anybody in America right now who is a thinking person would say that Japanese automobiles aren't better than American automobiles. And I kind of think that's what's happened in band—they've imported sort of an American idea, and they've improved on it greatly, and so I just want to be around that, and I want our students to see that because it raises our level and our expectations, and we work harder, I think.

私の国で、皆に言うんですよ。日本が車産業で起こしたのと同じことをバンドの世界でも起こしているよね。日本は何年も前にアメリカの車を見て、すごく気に入って、いい所を取り入れ、改良しました。

今はどのアメリカ人も日本の車はアメリカのより良くないとは言いません。バンドに関しても同じだと思います。アメリカの良い点を導入し、多く改善しました。私はそういうことを見たいし、学生にも見て欲しいし、それが私たちのレベルや期待感を上げることになります。そしてもっと頑張ろうと思います。



Timothy Owen Salzman

指揮者 ティモシー・サルツマン